

## 「饗宴から読み解く頼朝の御所」

小野正敏

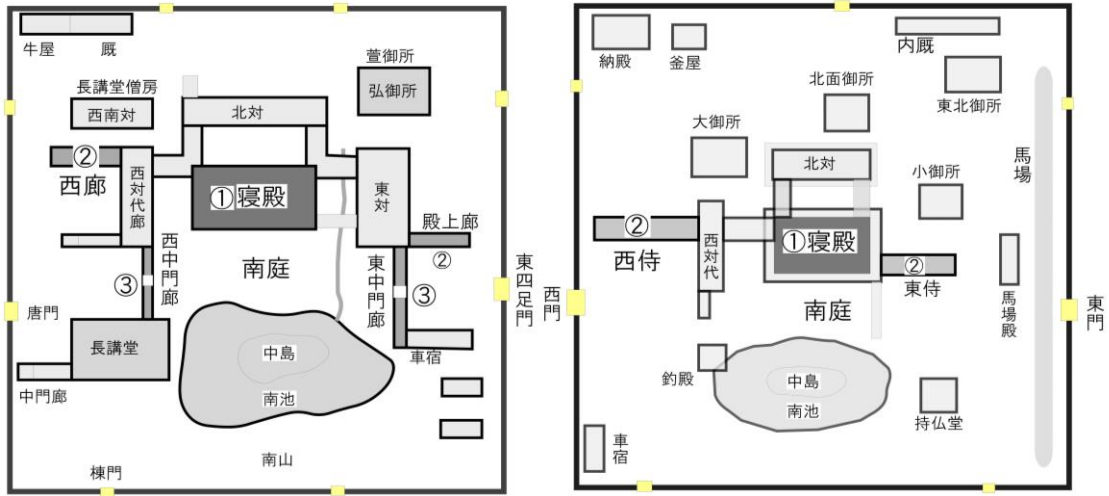
「吾妻鏡」の建久2（1191）年正月1日条によれば、千葉常胤が大倉御所で將軍頼朝に垵飯を献じました。記事には、頼朝が午刻に寢殿「南面」に出座、垵飯を受け、劔、弓矢、行膝、沓、砂金、鷲羽、馬4頭などの進物も献上されています。「庭の儀」の後、更に「母屋西面」に出座、「盃酒歌舞」に及んだとあります。また、建久6年（1195）正月1日条には、足利義兼が垵飯を献じ、例の如く劔や弓箭以下の進物が行われました。その後、頼朝は更に「西侍（所）障子之上」に出座し、御家人たちと宴をともにし、そのようすは「盃酒及数巡。私催群遊云々」と記されています。

この報告では、この2本の正月垵飯の記事を手がかりに、その舞台となった源氏の將軍邸、大倉御所の景観と空間の使われ方を考えてみたいと思います。

そこからは、垵飯の儀礼のようすが復元できるだけでなく、武家に特徴的な屋敷空間と儀礼がセットになるように、そこに反映された初期の武家政権の権力のあり方がみえてきます。さらには、ここで形作られたものが、その後の武家社会においても継承され、彼らの権力維持のための儀礼や空間として利用されてきたことが理解されるのです。

- 1 大倉御所と垵飯、その舞台を復元
  - ・ 建久2年正月1日の垵飯の記事から
  - ・ 建築史が復元した大倉御所の建物景観
  - ・ 寢殿造りと將軍御所の特徴
  - ・ 儀式空間としての寢殿南庇＋南庭
  - ・ 頼朝から実朝へ、次第に公家化する御所
- 2 垵飯とそれに続く饗宴
  - ・ 建久6年正月1日の垵飯の記事から
  - ・ 「寢殿」と「侍所」、使い分ける場と饗宴、
  - ・ 頼朝と御家人の関係
- 3 継承されるふたつの饗宴とふたつの場
  - ・ 戦国時代の武家の年頭儀礼
  - ・ 室町將軍の御成にみる饗宴と場

図1 院御所と將軍御所（太田静六「寢殿造の研究」より）



院御所  
後白河法皇六条殿（1180～1188年）

將軍御所  
源頼朝大倉御所2期（1191～1213年）

図2 寢殿造の邸宅（川本重雄「貴族住宅」『絵巻物の建築を読む』より）

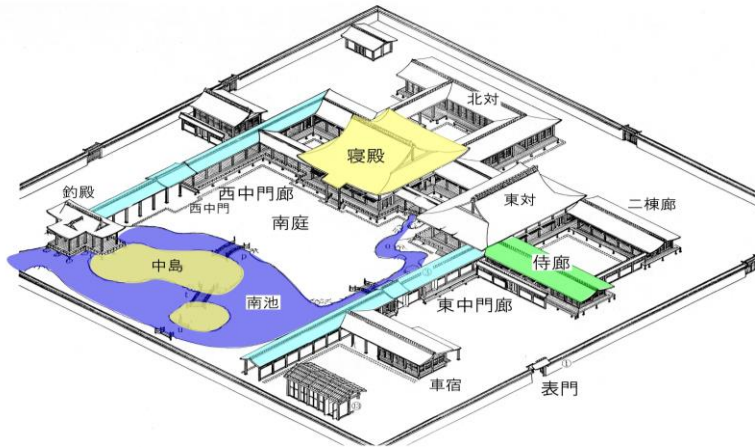


図3 戦国時代の主殿（寢殿）と会所の空間比較

	建物・施設	行事	機能	意識・空間原理
表 (端)	主殿(寢殿) + 広庭	盃事	儀礼	主従関係の確認・契約「式三献」
奥	会所 + 池庭	饗宴 + 献儀	宴会 芸能	身分関係の否定 「貴賤同座」 寄合 「一味同心」「一座建立」